

殿様日記 vol.10 扇いろいろ

平成 29 年 水無月 朔日

今年の長岡は 5 月に入り真夏を思わせるような日が続き、いよいよ今日から 6 月に入った。

昔から涼を取るにはうちわや扇子が日本人の生活に欠かせないものであった。

涼しさを少しでも感じて頂ければと考へ、長岡藩主牧野家史料館では、本日より牧野家が所有している扇を飾ることにしたので、展示の一部を紹介したいと思う。

来年の長岡開府 400 年を踏まえて、およそ 100 年前の開府 300 年の時に作られたもので、小堀鞆音^{ともと}の描いた三つ柏紋入り兜の絵に、祖父の牧野忠篤筆「祝長岡開府三百年」の扇。

小松の宮様である、大日本赤十字社総裁大勲位彰仁親王殿下筆の記念扇。

忠篤書による「祝長岡公会堂竣工記念」の扇。

これらは記念品として数多く配られたものなので、皆様の中にもお持ちの方々がいらっしゃるのではないかと考えている。



祝長岡開府三百年記念



大日本赤十字記念



遷宮記念

牧野忠篤筆のもので、昭和 5 年神宮遷宮記念の扇、その他には裏千家お家元ゆかりの扇、池坊お家元ゆかりの扇や、涼しさを感じて頂けるような、ほたる、金魚が描かれた扇も展示している。

ぜひ長岡藩主牧野家史料館に足を運んで頂き、つかの間の涼を感じ取って頂ければ幸いである。同室の床の間には、翡翠（カワセミ）のお軸を掛けている。



池坊舊七夕会全国大会記念



金魚